

社会科教科書の内容構成の改善

—中学校社会科公民的分野「経済」単元を手がかりにして—

Improvement of the Content Structure of Social Studies Textbooks:
In the Case of Economics in the Civics Education of Junior High School

林 信 男

(兵庫県三木市立緑が丘中学校)

1 はじめに

生徒たちが中学校社会科を学習するにあたって、その中心となって用いられるのが教科書である。現行教科書の内容、とりわけ中学校社会科公民的分野「経済」単元の内容は、経済用語・機構のしくみ・制度等の内容解説型の記述が中心である。さらに、経済社会のさまざまな現象が、それぞれ孤立に存在しており、関連性のないものとなっている。また、各教科書の記述内容の構成にも差異がある。

本稿では、教科書記述において、経済社会の現象がそれぞれ孤立に存在するのではなく、系統性・関連性のあるものとして編成されるべきであるとし、教科書の記述内容、挿入的補助資料がどういう視点に基づいて構成されているのかを分析し、問題点を指摘する。そして、「経済」単元における具体的な教科書の内容構成モデルを示す。

分析対象は、現在発行されている中学校社会科公民的分野の教科書7社(大阪書籍・教育出版・清水書院・帝国書院・東京書籍・日本書籍・日本文教出版)の「経済」単元とする。「経済」単元の位置づけは、学習指導要領の「国民生活の向上と経済」の内容としている。なお、教科書は、目次、本文、コラム・学習を深めるためのページなどの挿入的補助資料、図・グラフ・写真等の本文補助資料から成り立っているが、本稿では教科書の本文記述と挿入的補助資料を取りあげている。

2 公民的分野教科書「経済」単元の記述内容の構成

公民的分野教科書「経済」単元における記述内容は、内容面から大きく3つ(経済循環、日本経済の現状・課題、日本と国際経済との関連)に分けることができる。最初は、近代経済学の中のマクロ

経済学を土台¹⁾に経済主体である家計・企業・政府の関わり、つまり経済循環に関する内容である。次に、日本独自の経済問題(農業・社会保障・公害問題等)を現象面から取り扱う²⁾内容である。最後に、貿易摩擦をはじめとする国際経済に関する内容である。

これら3つの記述内容の構成と「経済」単元全体の構成を検討すると、次のような特徴と問題点が見られる。

(1) 経済循環を視点にした記述内容の構成

経済循環に関する内容は、基本的に家計・企業・政府の3つの経済主体に基づいて、次の5つの構成形態が見られる。①経済主体中心型、②経済主体一部追加型、③経済主体概括型、④経済主体視点型、⑤経済主体媒介型である。

① 経済主体中心型は、家計・企業・政府を個々に扱う構成の形態である。この形態としては、清水書院・東京書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点は、経済主体相互に関係のある内容も、ある経済主体とのかかわりだけで説明されてしまうことが指摘できる。

② 経済主体一部追加型は、ある経済主体から内容を発展させていこうとしている部分が一部見られる構成の形態である。この形態としては、大阪書籍の記述内容があげられ、企業活動を国際的な視野にまで広げて理解させようとしている。この形態での問題点は、経済主体からのつながりから、内容を発展させようとする部分が一部分だけにとどまってしまっていることが指摘できる。

③ 経済主体概括型は、最初にすべての経済主体を概括する内容が置かれる構成の形態である。この形態としては、帝国書院・日本文教の記述内容

があげられる。この形態では、基本的な経済のしくみを理解した上で、個々の経済主体の学習に入っていくことができる。

④ 経済主体視点型は、経済主体の流れを総括的・関連的にみられる視点を設定し、本文記述の間に挿入している構成の形態である。この形態としては、教育出版の記述内容があげられ、本文記述の間に貨幣の役割・流通・価格のはたらきなどの内容が挿入されている。この形態での問題点は、本文記述の間に挿入してある視点が、前後の内容の橋渡しとなっておらず、かえって内容的なつながりを断ち切ってしまうことが指摘できる。

⑤ 経済主体媒介型は、経済主体相互の間に経済主体を概括する内容が媒介として挿入されている構成の形態である。この形態としては、日本書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点は、媒介として挿入されている内容が必ずしも相互の理解を助けていないことが指摘できる。

以上の内容を図で示すと次のようになる。

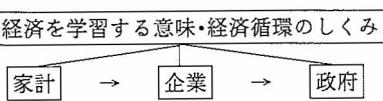
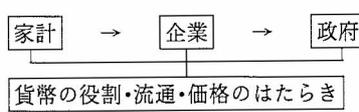
構成形態	教科書
①経済主体中心型…三つの経済主体に基づいた構成形態 	清水書院 東京書籍
②経済主体一部追加型…三つの経済主体に一部内容が付加している。 	大阪書籍
③経済主体概括型…最初に経済主体全体を概括する内容がおかれる。 	帝国書院 日本文教
④経済主体視点型…経済主体の流れを総括的・関連的にみられる視点を設定 	教育出版
⑤経済主体媒介型…経済主体相互の間に経済主体を概括する内容が媒介として挿入されている。 	日本書籍

図1-1 経済循環を視点にした記述内容の構成図

(2) 日本経済の現状・課題を視点にした記述内容の構成

日本経済の現状・課題に関する内容は、内容的なつながりから、次の4つの構成形態が見られる。

①統括型、②統括－他分野移行型、③経済主体包摂型、④経済主体包摂－統括－他分野移行型である。

① 統括型は、日本経済の現状・課題が一つにまとめてある構成の形態である。この形態としては、日本文教・教育出版・大阪書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点は、日本経済の現状と課題の内容がそれぞれ孤立した存在になっている。その結果、経済主体との関係も見えにくくなり、どうしてそのような問題が起こるようになったのか原因追求がしにくいことが指摘できる。

② 統括－他分野移行型は、日本経済の現状・課題が一つにまとめてあり、さらに世界を視野に入れて考えさせたい部分は他分野に移行している構成の形態である。この形態としては、清水書院・日本書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点は、統括型が抱えているのと同じように、日本経済の現状・課題が孤立した存在として列挙されている。また、他分野で扱われている内容も、地球環境問題、資源・エネルギーの問題、食料問題など世界的規模で考える問題が並立的に列挙されているにすぎないことが指摘できる。

③ 経済主体包摂型は、経済主体の学習から関連づけて、日本経済の現状・課題を考えていこうという構成の形態である。この形態としては、帝国書院の記述内容があげられる。この形態では、経済主体とのかかわりが明確になるが、日本経済の現状・課題の内容すべてを、経済主体の学習から関連づけるのには無理があることが指摘できる。

④ 経済主体包摂－統括－他分野移行型は、経済主体から、日本経済の現状・課題を見だし、さらに世界を視野に入れて考えさせたい部分は他分野に移行している構成の形態である。この形態としては、東京書籍の記述内容があげられる。この形態の問題点は、経済主体の学習から関連づけて日本経済の現状・課題を考えていこうとしている部分と世界を視野に入れて考えさせたい部分の関連性がないことが指摘できる。

以上の内容を図で示すと次のようになる。

構成形態	教科書
①統括型…日本経済の現状・課題が一つにまとめられている。 日本経済の現状・課題	日本文教 教育出版 大阪書籍
②統括－他分野移行型…日本経済の現状・課題が一つにまとめられている。さらに、世界を視野に入れて考えさせたい部分は他分野に移行している。 日本経済の現状・課題 世界的視野 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口・食料問題	清水書院 日本書籍
③経済主体包摂型…経済主体から、日本経済の現状・課題を見ていく。 家計 消費者問題 企業 農業問題 労働問題 etc 政府 社会保障 環境問題 etc	帝国書院
④経済主体包摂－統括－他分野移行型…経済主体から、日本経済の現状・課題を見だし、補いきれない部分をまとめる。さらに、世界を視野に入れて考えさせたい部分は他分野に移行している。 家計 消費者問題 企業 農業問題 産業構造 etc 政府 社会資本 日本経済の現状・課題 地球社会の危機を救うために 難民と外国人労働者 資源・エネルギー・食料問題 地球環境問題	東京書籍

図1-2 日本経済の現状・課題を視点にした記述内容の構成図

(3) 日本と国際経済との関連を視点にした記述内容の構成

日本経済と国際経済に関する内容は、内容的なつながりから、次の3つの構成形態が見られる。

①統括型、②統括－他分野移行型、③分散型である。

① 統括型は、日本と国際経済との関連が一つにまとめられている。この形態としては、日本文教・清水書院・帝国書院の記述内容があげられる。この形態の問題点は、小単元内の内容的なつながりはあるが、小単元同士は不十分なことである。つまり、縦のつながりはあるが横のつながりがない状態である。横の関係では、地域統合の問題、社会主義経済国の変化、発展途上国の問題などの内容が、国際経済との関連で配置されているだけで、それぞれが孤立した存在となっていることが指摘できる。

② 統括－他分野移行型は、日本と国際経済との関連が一つにまとめられている部分と国際社会との関連で述べられている部分が存在する構成の形

態である。この形態としては、教育出版・日本書籍・東京書籍の記述内容があげられる。この形態の問題点は、統括型と同じように、小単元内の縦のつながりはあるが、横のつながりが乏しい。また、他分野におかれている内容も、東西対立、南北問題、経済援助・経済協力のあり方などであり、内容同士のつながりがないことが指摘できる。

③ 分散型は、日本と国際経済との関連が分散している構成の形態である。この形態としては、大阪書籍の記述内容があげられる。分散型の問題点は、それぞれの内容がバラバラに分断されてしまい、日本と国際経済との関連を系統的に学習しにくいことが指摘できる。

以上の内容を図で示すと次のようになる。

構成形態	教科書
①統括型…日本と国際経済との関連が一つにまとめられている。 日本と国際経済	日本文教 清水書院 帝国書院
②統括－他分野移行型…日本と国際経済との関連が一つにまとめられている。一部分は他分野に移行している。 日本と国際経済 国際社会 経済援助 国際協力 地域統合	教育出版 日本書籍 東京書籍
④分散型…日本と国際経済との関連が分散している。 企業 国際化する企業活動 戦後の経済体制 自由貿易体制 資本主義経済 社会主義経済 南北問題 国際社会 地域統合 経済援助	大阪書籍

図1-3 日本と国際経済との関連を視点にした記述内容の構成図

(4) 全体構成を視点にした記述内容の構成

「経済」単元全体に関する内容は、内容的なつながりから次の5つの構成形態が見られる。

① 独立型は、「経済」単元の学習内容の柱である「経済循環」「日本経済の現状・課題」「国際経済」が、それぞれ独立した形で構成されている形態である。したがって、しくみ・制度を理解するにあたって順序だてた学習が可能になる。この形態としては、日本文教の記述内容があげられる。この形態の問題点は、現在の経済社会はそれぞれの事象が複雑に結びついたり、関連しあっているため、その結びつき・関連性が理解しにくいことが指摘できる。

② 独立一部関連型は、独立型と同じようにそれぞれが独立した形で順次構成されているが、一部国際社会とも関連がある構成の形態である。この形態としては、教育出版・日本書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点も独立型と同じように、経済社会の事象の結びつき・関連性が理解しにくく、国際社会との結びつきも曖昧であることが指摘できる。

③ 交流型は、「経済循環」のしくみと「日本経済の現状・課題」の部分が相互に関連しあっている構成の形態である。例えば、「家計」から消費者問題、「企業」から農業問題、労働問題、「政府」から社会保障、環境問題というようにである。この形態としては、帝国書院の記述内容があげられる。この形態での問題点は、「国際経済」の問題を単独の章として位置づけていることである。この構成だと、国際経済と経済主体との結びつきが見えにくいことが指摘できる。

④ 関連型は、「日本経済の現状・課題」「国際経済」において、「国際社会」との関連から捉えようとした部分が存在する構成の形態である。つまり、食料問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題、南北問題、地域統合の問題などは、日本・世界の経済問題として捉えるのではなく、地球規模で考えるべき国際社会の問題として捉えている。この形態としては、清水書院・東京書籍の記述内容があげられる。この形態での問題点は、上述の国際社会的な問題はやはり、日本経済・世界経済とのかかわりの中で生まれてきた問題であり、国際社会に関する問題を一まとめにして理解させようとすると、結果として起こってしまっている問題からのアプローチになり、どうして地球環境問題や南北問題が起こるようになったのかという因果関係の追求が曖昧になってしまうことが指摘できる。

⑤ ピラミッド型は、「経済循環」を土台にして、「日本経済の現状・課題」「国際経済」が位置づいている構成の形態である。この形態としては、大阪書籍の記述内容があげられる。全体的な内容構成からいえば、このピラミッド型が理想である。その理由は、「家計」「企業」「政府」の経済主体がどのような形で循環しているかをもとに、日本経済の現状・課題、国際経済の問題点にまで踏み込んだ

発展的な学習が期待できるからである。

以上の内容を図で示すと次のようになる。

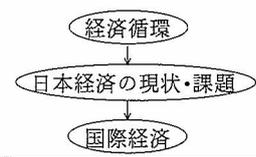
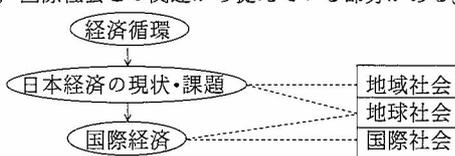
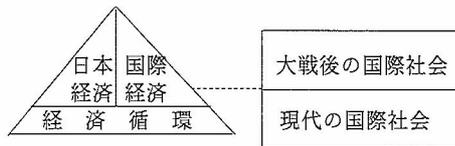
構成形態	教科書
①独立型…それぞれが独立した形で、順次構成されている。 	日本文教
②独立一部関連型…それぞれが独立した形で、順次構成されているが、一部国際社会との関連がある。 	教育出版 日本書籍
③交流型…経済循環、日本経済の現状・課題の両方の内容を含んでいる。 	帝国書院
④関連型…日本経済の現状・課題、国際経済において、国際社会との関連から捉えている部分がある。 	清水書院 東京書籍
⑤ピラミッド型…経済循環を土台として、日本経済の現状・課題、国際経済が位置づき、国際経済は「現代の国際社会」とも関係がある 	大阪書籍

図1-4 全体構成を視点にした記述内容の構成

3 公民的分野教科書「経済」単元の挿入的補助資料の構成

公民的分野教科書「経済」単元における挿入的補助資料は、「資料で学ぼう」「学習を深めよう」「やってみよう」「コラム」などのタイトルに見られるような事例が55ある。

これらの挿入的補助資料を内容面、さらに記述内容との関連において、どのように構成されているのかを分析する。

挿入的補助資料の内容が、どのように構成されているのかを分析すると、大きく3つの類型に分けられる。

- ・資料提示型…現状・比較・推移・しくみを理解す

るため、図・グラフ・写真等を提示している。

- ・内容補足型…教科書に記述されている内容をより詳しく説明したり、関連することがらを扱う。
- ・学習活動型…ディベート・役割発言・疑似体験等を行う。

これら3つに類型化できた挿入的補助資料の内容が、本文の記述内容とどのように関連しているのかをみていく。

(1) 資料提示型としての挿入的補助資料の構成

資料提示型としての挿入的補助資料は、現状・比較・推移・しくみを理解するため、図・グラフ・写真等の視覚的な資料のみが提示されている構成の形態である。この形態としては、清水書院・大阪書籍の挿入的補助資料があげられる。

資料提示型の構成の問題点は、比較できるグラフ、写真が提供されているにもかかわらず、それをどう活用するのかが、教師の力量であったり、生徒の読み取る能力に任されてしまう点である。資料だけが提示されているから、それを十分に生かした指導ができる場合とそうでない場合の差が出てきてしまう。これでは、生徒にとって不利益をこうむる可能性があり、資料だけをいくつも並べて挿入的補助資料のページを作るのには無理があるということが指摘できる。

資料提示型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-1 資料提示型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル
1	清水書院	資料で学ぼう 日本の労働条件
2	清水書院	資料で学ぼう 日本の社会保障制度
3	清水書院	資料で学ぼう 消費者問題
4	清水書院	資料で学ぼう 日本の農業問題
5	清水書院	資料で学ぼう 日本の公害問題
6	清水書院	資料で学ぼう 世界のなかの日本経済
7	清水書院	資料で学ぼう 地球環境問題
8	大阪書籍	コラム おもな国の社会資本の整備

(2) 内容補足型としての挿入的補助資料の構成

内容補足型としての挿入的補助資料は、教科書に記述されている内容を図・グラフ・写真等を用いて、より詳しく説明したり、関連することがらを扱っている構成の形態である。内容補足型としての挿入的補助資料は、本文記述とのつながりにおいて、さらに以下の5つに分けられる。

- ①補足型
- ②補足→考察型
- ③補足→考察→発展型
- ④補足→活動型
- ⑤補足→活動→発展型

①補足型の構成

補足型は、教科書の本文記述を補うかたちで説明している構成の形態である。この形態としては、帝国書院・大阪書籍・清水書院・日本書籍の挿入的補助資料があげられる。

補足型の構成の問題点は、読み物的・解說的資料が中心であり、あくまでも教科書記述に関連性のあることがらを補足しているだけにとどまってしまうことである。その具体的事実からどのように考えていくことができるかという方向性に乏しいことが指摘できる。

補足型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-2 補足型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル
1	帝国書院	資料で学ぼう 企業の海外進出
2	帝国書院	資料で学ぼう 女性と職業
3	大阪書籍	コラム 「讃岐うどん」はオーストラリアにかぎる?
4	大阪書籍	コラム 「よき企業市民」として
5	大阪書籍	コラム 男性職?女性職?
6	大阪書籍	コラム 森と湖の死
7	大阪書籍	コラム 「ふつう」の生活をするために
8	大阪書籍	コラム 日本のODA
9	大阪書籍	コラム 世界子どもサミット
10	清水書院	私の社会見学 契約の解除
11	清水書院	私の社会見学 急増した外国人労働者
12	日本書籍	学習を深める 仕事とゆとり
13	日本書籍	学習を深める これからの日本農業
14	日本書籍	学習を深める 古紙のはなし

②補足→考察型の構成

補足→考察型は、教科書の本文記述を補うかたちで説明し、さらに考えさせる内容を提示している構成の形態である。この形態としては、大阪書籍・教育出版・東京書籍・日本書籍・日本文教の挿入的補助資料があげられる。

補足→考察型の構成の問題点は、教科書記述に関連性のあることがらを補足し、考察すべき視点を示してあるが、その内容を考察した段階で終っ

てしまうことが指摘できる。

補足→考察型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-3 補足→考察型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル	
1	大阪書籍	コラム	お金の値段？
2	教育出版	社会の動きをみてみよう	カード社会
3	教育出版	社会の動きをみてみよう	環境問題と資源・エネルギーの問題
4	東京書籍	公民にチャレンジ	政府開発援助(ODA)の現状と課題
5	日本書籍	学習を深める	中学生の消費者相談
6	日本書籍	学習を深める	市場のしくみとそのひろがり
7	日本書籍	学習を深める	グルメ猫と働く人々
8	日本書籍	学習を深める	牛肉中心の食生活と地球環境
9	日本文教	学習を深めよう	エネルギー資源の消費と節約

③補足→考察→発展型の構成

補足→考察→発展型は、教科書の本文記述を補うかたちで説明し、考察させる内容を提示している。さらに、この考察させた内容が次に学習することがらへと内容的につながっていている構成の形態である。この形態としては、帝国書院・日本文教の挿入的補助資料があげられる。

補足→考察→発展型の構成は、考察を行った結果、次の内容へと広がりを持って学習内容同士が関連し、発展していていることが指摘できる。

補足→考察型→発展型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-4 補足→考察→発展型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル	
1	帝国書院	資料で学ぼう	交換と貨幣の発達
2	日本文教	学習を深めよう	通信販売と消費者の権利
3	日本文教	学習を深めよう	GDPから見た世界

④補足→活動型の構成

補足→活動型は、教科書の本文記述を補うかたちで説明し、さらに話し合い、調べ学習、調査活動などの学習活動的要素を取り入れている構成の形態である。この形態としては、教育出版・清水書院・帝国書院・東京書籍・日本書籍・日本文教の挿入的補助資料があげられる。

補足→活動型の構成の問題点は、教科書記述に関連性のあることがらを補足し、さらに自分たちで調べるとい活動を行ったとしても、内容的にそこで区切りが付き、挿入的補助資料自体が孤立した存在になりがちであることが指摘できる。

補足→活動型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-5 補足→活動型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル	
1	教育出版	社会の動きをみてみよう	今、食料生産の現場は—農業・水産業の現状—
2	教育出版	社会の動きをみてみよう	バン格拉デシュ・ツアーで学んだこと
3	清水書院	私の社会見学	「価格破壊」が始まった!?
4	帝国書院	考えてみよう	カードの時代
5	帝国書院	資料で学ぼう	高齢化社会とこれからの社会保障
6	東京書籍	経済の窓	増え続ける悪質商法
7	東京書籍	経済の窓	生産技術のバイオニア—中小企業の挑戦—
8	東京書籍	公民にチャレンジ	外国人労働者と日本
9	東京書籍	国際の窓	わたしたちの食生活と熱帯林
10	日本書籍	学習を深める	円高・円安とわたしたちの暮らし
11	日本書籍	学習を深める	社会主義の経済
12	日本文教	学習を深めよう	「価格破壊」ってなに

⑤補足→活動→発展型の構成

補足→活動→発展型は、教科書の本文記述を補うかたちで説明し、そして調べ学習などの学習活動的要素を取り入れている。さらに、この学習活動をすることによって、さまざまな疑問点にぶつかり、そのことを解決するために、新たな学習が必要になってくるように内容的に発展できる構成の形態である。この形態としては、清水書院・帝国書院の挿入的補助資料があげられる。

補足→活動→発展型の構成は、学習活動によって、さまざまな疑問や問題点を浮かび上がらせて、それを次の内容に結びつけ、発展させていることが指摘できる。

補足→活動→発展型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-6 補足→活動→発展型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル	
1	清水書院	私の社会見学	「豊かさ」とは何だろうか
2	帝国書院	ディベートをしてみよう	「間接税の比率を上げ、直接税を減税すべきか、そうでないか」

(3) 学習活動型としての挿入的補助資料の構成

学習活動型としての挿入的補助資料は、教科書に記述されている内容をもとに、ディベート・役割発言・疑似体験等の学習活動を取り入れている構成の形態である。学習活動型としての挿入的補助資料は、本文記述とのつながりにおいて、さらに以下の2つに分けることができる。

①活動型

②活動→発展型

①活動型の構成

活動型は、教科書に記述されている内容あるいは関連性があることがらなどを、ディベート・役割発言・疑似体験等を行うことによって体験的に理解させようとしている構成の形態である。この形態としては、大阪書籍・教育出版・東京書籍の挿入的補助資料があげられる。

活動型の構成の問題点は、学習活動を行ったという事実だけにとどまってしまい、他の内容への発展性が乏しいことである。

活動型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-7 活動型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル
1	大阪書籍	課題学習 かしこい消費者になるために
2	大阪書籍	課題学習 今日の環境問題について調べてみよう
3	教育出版	やってみよう 「株主」になって株式会社の経営に参加しよう
4	教育出版	やってみよう あなたは、将来、どんな仕事をしたいか
5	東京書籍	公民にチャレンジ 女性と職業

②活動→発展型の構成

活動→発展型は、調べ学習、ディベート等の学習活動を行い、さらにこの活動を通して、今まで見えなかった私たちの暮らしと経済活動とのかかわりが見えてきたり、調査したことが次の学習への橋渡しとなっている構成の形態である。この形態としては、教育出版・東京書籍の挿入的補助資料があげられる。

活動→発展型の構成の問題点は、学習活動をいかに工夫するかということである。生徒にとって、身近に感じられ、興味・関心がわくような学習活動を取り入れることによって、できるだけ広範囲の内容へと発展していくことができる。

活動→発展型の挿入的補助資料を表にすると次のようになる。

表1-8 活動→発展型としての挿入的補助資料

No.	教科書	挿入的補助資料のタイトル
1	教育出版	やってみよう 身近な地域の経済を調査する
2	東京書籍	公民にチャレンジ 輸入自由化と日本の農業

4 公民的分野教科書「経済」単元の内容構成の改善

(1) 教科書内容の改善視点

本文の記述内容と挿入的補助資料の構成を分析した結果、次のような問題点が析出された。

記述内容の構成においては、内容同士の関連・つながりが薄く、それぞれの内容自体が孤立状態におかれている。そのため、個々の学習内容が接合性のあるものにならず、生徒たちは現象理解に重点がおかれた暗記学習に陥ってしまうことである。

記述内容との関連における挿入的補助資料の構成においては、資料をもとに考察したり、学習活動を行ったりするものが多いが、目的意識が曖昧で、考察・学習活動が他の内容へとつながり、発展性のあるものになっていない。挿入的補助資料55事例のうち48事例は、資料だけが提示してあったり、教科書の記述内容を補うために、読み物・解説的資料がおかれ、それをもとに考察・学習活動が行われているに過ぎないことが判明した。

このような問題点が出てくる最大の原因は、記述内容とそれに関する挿入的補助資料が、ただ位置づけられているだけで、それらを系統的・関連的に構成できる視点が欠如していることである。

(2) 教科書の内容構成モデル

①本文記述の内容構成モデル

各教科書の内容構成を分析した結果を踏まえて、本文記述における内容構成モデルを作成した。教科書本文の記述内容においては、さまざまな経済問題をつながりのあるものとして捉えるべきである。

その試みとして、経済全体を統括する内容を最初に学習し、それをもとに「家計」「企業」「政府」の経済主体が位置づき、さらにさまざまな現代社会の問題点、国際経済との関連、地球規模で考えていくべき問題へと、よりグローバルな視点で学習できるような構成を考えた。

経済循環を視点にした内容構成では、最初に経済主体を概括する内容がおかれる経済主体概括型が、それぞれの経済主体にかかわる内容を最初に学習するので、「家計」「企業」「政府」との関連性が明確にわかる。そして、それぞれの経済主体から、日本経済の現状・課題をみていく。

さらに、すべての経済主体とかわる問題、地

球規模で考えるべき問題へと視野を広げていく。この内容構成として参考にしたのが、経済主体包摂—統括—関連型である。

日本と国際経済との関連では、統括—他分野関連型の構成を応用し、日本と国際経済との関連がわかり、さらに、国際的な視野で解決していかなければならない問題へと内容がつながり、広がっていくようにした。

これらを、ピラミッド型の全体構成と組み合わせることによって、内容的・体系的に関連した内容構成が組織できる。

本文記述の内容構成モデルを図示すると以下のようになる。

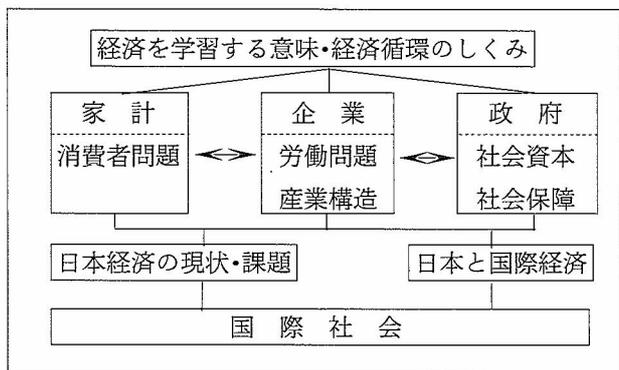


図 2-1 本文記述の内容構成モデル図

②記述内容と挿入的補助資料の内容構成モデル

記述内容との関連からみた挿入的補助資料においては、55 事例のうち僅か 7 事例ではあるが、他の内容へと関連・発展できるような構成になっているものがある。分類からいえば、①補足→考察→発展型、②補足→活動→発展型、③活動→発展型である。これら三つは、他の内容とのつながりを考慮して挿入されている。しかし、単元の中での配置を見ると、本文記述の中であったり、最後に置かれている場合が多い。その立場を逆転させて、これらの挿入的補助資料を単元の最初に置く。そして、挿入的補助資料=教材として位置づけ、それをもとに経済学習の内容へと発展できるようにする。挿入的補助資料=教材の内容は、生徒にとって具体的な事象、日常生活で関与できる内容を含んだものが求められる。つまり、その事象を「足がかり」⁹⁾として、生徒の日常知を最大限に生かし、それを適切に発展させていくことができれば、一貫した意味の追求ができるのである。

さらに、教科書の記述内容と組み合わせ、関連的・体系的に構成することによって、生徒の理解も容易になる。

記述内容と挿入的補助資料の内容構成モデルを図示すると以下のようになる。

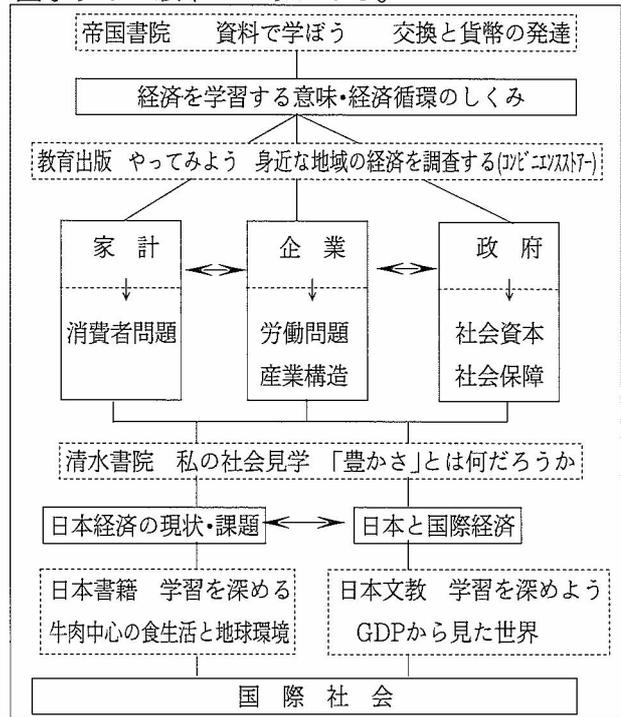


図 2-2 記述内容と挿入的補助資料の内容構成モデル図

5 おわりに

本稿で明らかになった内容構成モデルをもとに、公的分野「経済」単元の具体的な教科書内容の開発を行い、授業実践をもとに改善・改良を加えて充実させていきたい。

また、教科書分析においても、教科書本文との関連でおかれている図・グラフ・写真など本文補助資料の構成も明らかにする必要がある。さらに、経済学との関係において、経済概念・理論とのかかりについても明確にしたい。

[註]

- 1) 山根栄次「経済教育の人間像を巡る基本問題」『三重大学教育学部研究紀要』第43巻, 1992, p.3。
- 2) 魚住忠久・宮原悟「高校『経済教育』の研究と展開」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第12号, 1988, p.122。
- 3) 波多野誼余夫編『自己学習能力を育てる』東京大学出版会, 1980, p.125。